

支援センター名	河原町子ども地域活動支援センター
所在地	〒680-1221 鳥取県八頭郡河原町渡一木 277
連絡先	Tel 0858-76-3122 Fax 0858-76-3006

事業の概要とポイント

本町連合青年団から、完全学校週5日制が実施されるにあたって、青年団としても子どもたちにかかわっていくような活動を展開していきたいとの相談があった。これを受けて、コーディネーターが地域の子ども会や学校・町子ども会育成連絡協議会に相談し、青年団の活動の拡大並びに子どもたちの青年団との交流・奉仕活動の機会を設けることができた。

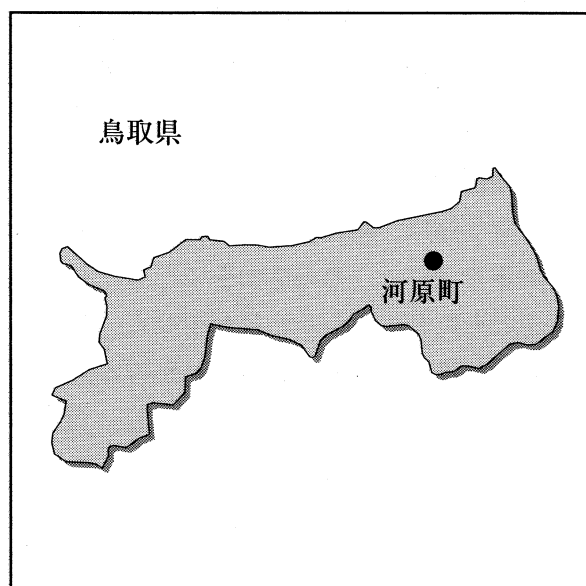
関係した学校・団体の名称

河原町連合青年団，町内各子ども会，西郷小学校，散岐小学校，河原第一小学校，河原中学校，河原町子ども会育成連絡協議会（以下「町子連」と呼ぶ）

地域の現況・特色

活動対象地域の河原町の人口は8,549人である。

本町は、鳥取県東部のほぼ中央に位置し、総面積83.6km²。気象・地形等の恵まれた自然条件と鳥取県三大河川の一つである千代川・山陽地方とを結ぶ道路の主要な結節点をなす立地条件をもとに、農業や地域産業で県東部地域での主要な役割を果たしてきた。歴史的にも早くから開けた地域で、『古事記』には本町にゆかりの深い八上姫をはじめとする人物や地名が登場している。昭和30年、旧5ヶ町村の合併により誕生した本町は、現在「誇り・夢・ぬくもり・きらめきあふれるまち」をキーワードに第5次総合計画を策定し、更なる発展をめざしている。県下有数の産地である柿や梨、千代川の速い流れと清らかな水が育んだ鮎は有名で、特に鮎については江戸時代から鮎漁を行ってきた伝統があることから「あゆの町」として知られ、毎年7月「あゆ祭」を開催している。



また、町東部にある霊石山はスカイスポーツのメッカとして全国的に知られ、「霊石山フライトフェスティバル～八上姫ジャパンレディースカップ～」を毎年開催し、「あゆ祭」とともに活

気あふれる町づくりにつながっている。

企画から活動までの経緯

- ア. 4月21日 青年団から町内2地域で子どもたちと「カーブミラー・バス停の清掃」をやりたいとの相談を受けた。
 - 4月22日 青年団と活動の詳細について打ち合わせ、「町子連」に協力の要請を行うと同時に、各子ども会代表者に子どもたちの参加を依頼した。
 - 4月25日 参加児童の取りまとめを行い、参加児童数の確認と集合場所・時間等の確認を行った。青年団とは当日の動きについての最終確認を行った。
 - 4月27日 「町子連」役員2名と当日の活動の支援を行った。参加児童数は合計28名。
- イ. 9月30日 青年団から子どもたちを対象に「しいたけ料理コンテスト」を行いたいので、協力をしてほしいとの要請を受けた。
 - 10月4日 チラシの作成に立会い、学校をとおしてチラシ配布をし、取りまとめも学校へお願いすることとした。
 - 10月22日 各小中学校へ青年団と同行し、チラシの全児童生徒への配布と取りまとめをお願いした。
 - 11月6日 参加児童数の確認を行い、当日の流れについて確認をした。
 - 11月30日 町中央公民館調理室で事業実施。参加児童は5チーム20名。

事例の展開内容

本町青年団は、結成以来、地域に貢献することを根幹において活動してきた。完全学校週5日制の実施を受けて、その活動を子どもたちへのかかわりに広げて行くこととなった。しかし、今まで子どもたちへのかかわりが少なく、どういう活動をしていけばよいのか、また、そのためにどのような段取りが必要なかわからず困っていたようである。

そこで、コーディネーターに相談し、コーディネーターは子どもたちにあった活動の紹介や、学校や地域の方々の協力をどのようにして得るかアドバイスをした。また、企画段階で助言をしたり、小学校に協力を求めたり、当日参加するなど活動全般にわたり支援した。

企画・活動する上でのポイント、留意点など

地域の人や青少年育成団体の中には、学校・他団体などとの連携を取るノウハウがなく、断念してしまうケースがあるのではないと思う。コーディネーターは、こうした各団体やサークル・地域の方々の思いを把握することが重要であると考えた。そのためには、各団体の会合や活動にできる限り顔を出しておくことが大切であると感じた。今回の場合、「町子連」の総会にコーディネーターと青年団長が参加していたことから端を発している。また、「カーブミラー・バ

ス停の清掃」では、相談を受けた日と実施日との間が6日間しかなかった。しかし、無理を承知で各子ども会に声かけをしたところ、30名近くの子どもたちが集まった。相談があったとき「できない。」と判断してしまうのではなく、先ず行動してみる事が大切なことであると再認識した。

評 価

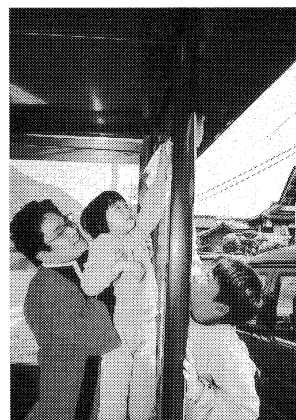
今回の活動により、青年団は自分たちの願いを実現でき、その活動を広げることができた。ノウハウも得て次への活動につなげていくことと思う。また、参加した子どもたちは、青年団の若いエネルギーや優しさに触れ、家族や先生から受け取るものとは違ったメッセージを受け取ったようであるし、カーブミラーやバス停の清掃などの奉仕活動を体験できたことも、大きな成果であったと考える。

学校は、地域で子どもたちのために活動している青年団の存在を知ることができ、学校・地域が一体となって子どもたちを育てて行く気運を高揚していく一つのきっかけになったと考える。

【活動風景】



青年団が作った「しいたけ」を使って
子どもたちとオリジナルしいたけ料理づくり



青年団のお兄さんとバス停のそうじ
「きれいになったぞ〜」